

科目名	インドネシア語専門セミナー（現代社会論）Ⅱ						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	3年次	単位数	2単位
教員名	アントニウス ラーマト プジョ ブルノモ						

授業概要／Course outline

春学期の授業の続きとして本授業では、日本におけるインドネシア人社会を主題とし、越境移動と多文化共生の観点から現代社会を考察します。具体的に例えば、技能実習生や特定技能労働者として来日するインドネシア人労働者、ならびに大学や日本語学校に在籍する留学生の生活実態に注目します。彼らがどのような動機で来日し、どの分野で働き、学んでいるのかを把握するとともに、日本の制度や慣行が彼らの日常にどのような影響を与えているのかを検討します。

また、在日インドネシア人によるコミュニティ形成にも焦点を当てる。モスクや宗教行事、民族的ネットワーク、SNSを通じた情報共有や相互扶助の仕組みを分析し、異文化環境の中でどのように安心できる居場所を築いているのかを考察します。さらに、日本人との職場や学校、地域社会での交流を通じて生まれる相互理解の可能性と、その一方で直面する言語の壁、宗教的慣習、労働条件、差別や孤立といった問題についても取り上げます。

授業では、文献講読に加えて、学生自身がインタビュー調査や事例調査を行い、在日インドネシア人が直面した課題をどのように乗り越えてきたのかを具体的に明らかにすることを求めます。個人やコミュニティの工夫、支援団体や制度の役割に注目し、多文化共生社会の課題と可能性を主体的に考える力を養うことを本授業の目的とします。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション）

グループ討論を通して自分たちの考えをまとめた上で、パワーポイントを使った発表を行います。

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

オンデマンド授業には、MoodleないしTeamsを使用します。

授業内容・授業計画／Course description・plan

講義の冒頭では、まず現代の日本におけるインドネシア人社会或いはコミュニティが抱える主要な問題についてのニュース動画やSNSを視聴し、そこから読み取れる問題について検討します。

その後、短編論文読解を通して日本におけるインドネシア人社会が抱える主要な問題について検討します。学生は、指定された文献を読み解き、ディスカッションを行い、現代インドネシア社会が抱える問題を考える上での鍵概念を理解し、自分なりの意見をまとめます。

最終的に、教員から出された設問に解答するかたちでまとめレポートを作成し、教員からのフィードバックを得た上でレポート内容を発表し、最終レポートを完成させます。

第1回 テーマ 授業の概要説明

演習の進め方、授業の主題と結論への道筋を提示します

第2回 テーマ 日本におけるインドネシア人の留学生たち①

第3回 テーマ 日本におけるインドネシア人の留学生たち②

第4回 テーマ 日本におけるインドネシア人の研修生たち

第5回～第6回 テーマ 日本におけるインドネシア人の労働者たち

短編論文の講読を行い、クラス議論を経て短いまとめを執筆する。教員－学生間の対話シート実施

第7回 中間テスト

第8回～第9回 テーマ 宗教によるインドネシア人のコミュニティ

短編論文を講読し、クラス議論を経て短いまとめを執筆します。

第10回 テーマ SNS上でのインドネシア人のコミュニティ

第11回 ～第12回 テーマ 日本におけるインドネシア人社会と日本或いは外国人コミュニティとの関わり

教員から与えられた設問に答えるかたちで、最終プレゼンテーションの準備を行います。

第13回～第14回 テーマ 演習の総まとめ発表、学生発表と最終レポート作成「学習成果実感調査」

★オンデマンド 第13～14回授業にて実施する学生プレゼンテーション録画を視聴し、コメントします。

①学生プレゼンテーションの録画を視聴します。（60分）

②クラスメート全員と自分の発表の良い所、改善点をコメント投稿します。（20分）

③振り返りのためのワークシートを記入、提出します。（10分）

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回

〔事前学習〕シラバスで予定されている授業内容を確認しておきます。また、日本におけるインドネシア人社会或いはコミュニティにおいて人々が母国インドネシアと移住先の日本についてどのように思っているのかについて、自分なりに考えてみます。

〔事後学習〕配布されたレジュメをよく読み、授業内容をまとめたノートを見直し、日本におけるインドネシア人社会或いはコミュニティが抱える主要な問題を意識し、自分なりに再確認します。

第2回～第12回

〔事前学習〕それぞれの社会問題について、インターネット等で事前調査しておきます。

〔事後学習〕配布されたレジュメをよく読み、授業内容をまとめたノートを見直し、不明点がないか確認します。

第13回～第14回

〔事前学習〕これまでの授業の論点、問題点を整理しておきます。

〔事後学習〕自分のまとめレポートの進捗を確認し、教員の指示に従って修正に取り組みます。

※各授業に対する事前・事後学修は約180分を目安とし、合計で2,700分程度とします。上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うことです。

授業の到達目標／Expected outcome

日本におけるインドネシア人社会の現状について理解します。その上で、周辺のコミュニティー（日本及び他の外国人のコミュニティー）との関わりと態度について検討して自分なりの意見を説明することができるようになることです。日本と海外からの人々がお互いに理解し合えるようにどのような環境ができれば良いかを提案できる事が望ましい。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- | | |
|-------|-----------------|
| ・ 思考力 | 専門知識・専門技能 |
| ・ 主体性 | 【外国語学部 アジア言語学科】 |
| | ・ 言語的技能 |

履修上の注意／Special notes, cautions

履修上の詳細な注意に関しては、第1回の授業で資料を配布して説明するので必ず出席することです。また、この授業では、ポイント制を採用します。履修学生は、授業に出席し、指示された課題を行い、提出することでポイントを取得し、ポイント数によって評価が決定します。なお、教員や学生の発言や発表に対して積極的に質問やコメントを行う場合もその都度ポイントが付与されます。従って履修学生には、積極的に授業に参加する姿勢を求めます。また、「事前・事後学習」にある通り、本授業は授業時間以外に毎週2時間の事前・事後学習時間を前提としています。つまり本授業では、履修学生はただ授業を受講するだけでなく、自分自身の関心や疑問を見つけて自主的に情報を検索し、それを授業で共有する姿勢が必要になります。

評価方法／Evaluation

平常点 30%
授業内課題、テスト 40%
最終課題 30%

教 材／Text and materials

必要に応じてプリント等を配布します。

質問や相談の方法／Instructor contact

オフィスアワー、Teamsのチャットやeメールを利用してください。